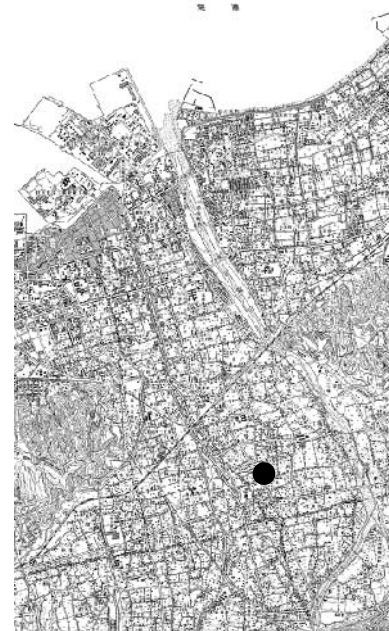
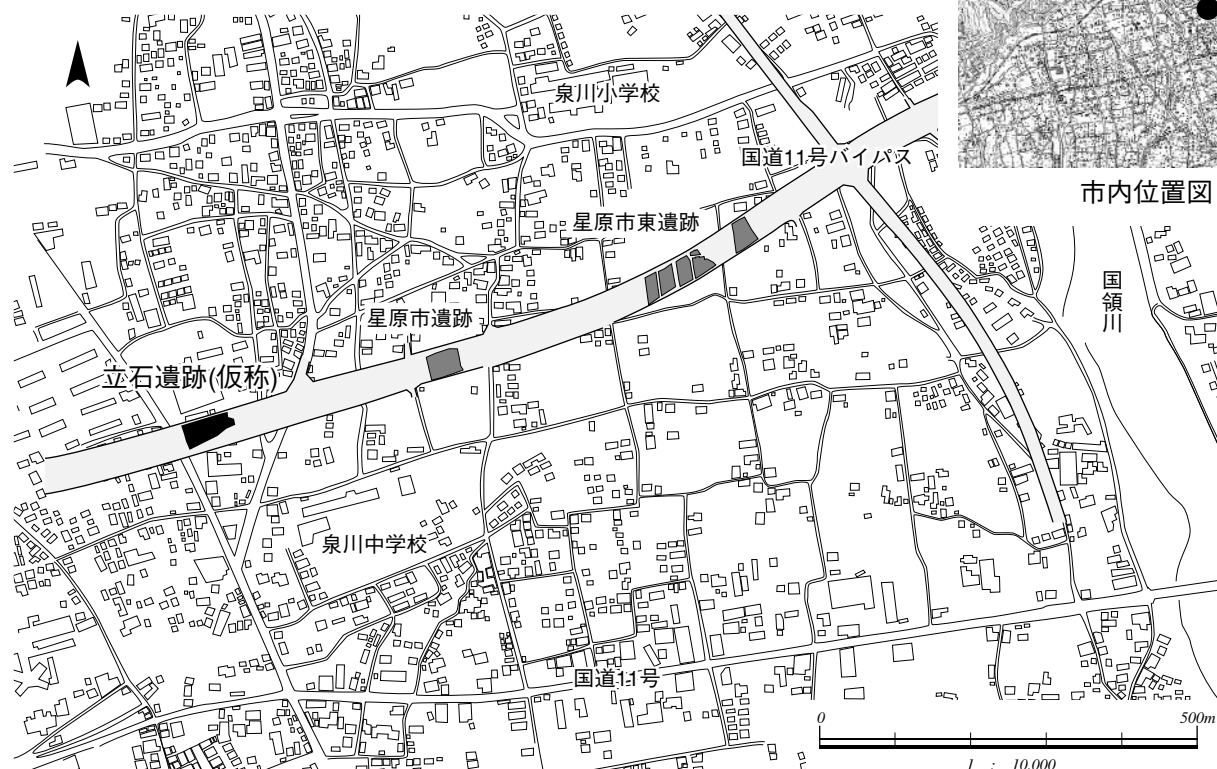


たていしいせき  
**立石遺跡** (仮称)

事業名 一般国道11号新居浜バイパス埋蔵文化財調査  
委託者 国土交通省四国地方整備局  
受託者 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター  
遺跡名 立石遺跡(仮称)  
調査面積 約1,100m<sup>2</sup>  
場所 新居浜市寿町



市内位置図



立石遺跡(仮称)調査区位置図

新居浜市は愛媛県の東部に位置し、西は西条市、東は宇摩郡土居町・別子山村、南は高知県吾川郡本川村と接し、北は燧灘に面しています。南には四国山地石鎚山脈の黒森山・笹ヶ峰、その北東に赤石山系が連なり、市域の北半は新居浜平野となっています。

総面積の68%が山岳地帯で、四国山地の分水嶺から発して、「別子ライン」と呼ばれるV字谷を形成しながら北流する国領川・東川・尻無川はいずれも流路が短く、中央構造線上の大断層崖下に扇状地性低地・海岸平野を展開しつつ、燧灘に注いでいます。

市域の4分の1を占める新居浜平野は、国領川・東川などの諸河川が土砂を堆積し形成していったものであると考えられます。

財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センターでは一般国道11号新居浜バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査として、平成12年度に星原市東遺跡、平成13年度に星原市遺跡の調査を行い、弥生時代前期末～中期初頭や中世の遺構や遺物を確認しました。

今回調査を行った立石遺跡では弥生時代中期の遺構や遺物を確認することができました。遺構は竪穴住居が3棟確認され、その内の住居のひとつからは多量の弥生土器が出土しました。集落の一部と考えられる竪穴住居を調査したことにより、今後、新居浜市周辺の弥生時代の社会を考えるうえで、有効な資料になると思われます。

# 立石遺跡(仮称)遺構配置図

今回調査を行った立石遺跡(仮称)では、弥生時代中期の遺構と遺物が確認され、その当時この付近で人々が生活を営んでいたことが分かりました。

遺構は直径が7m近くあるもの(竪穴住居1)、比較的遺存状態が良く住居内から作業台が出土したもの(竪穴住居2)、竪穴住居を埋めている土の中に多量の弥生土器を含むもの(竪穴住居3)を検出しました。

竪穴住居は大小2棟の円形のもの、小型の方形のものがあります。

遺物は竪穴住居3から最も多く出土しており、いろいろな形の口縁部分を見ることができます。

竪穴住居2 遺物出土状況



竪穴住居3 遺物出土状況



竪穴住居3から出土した遺物



高杯



高杯



壺



壺



壺

竪穴住居1 検出状況



竪穴住居1から出土した遺物

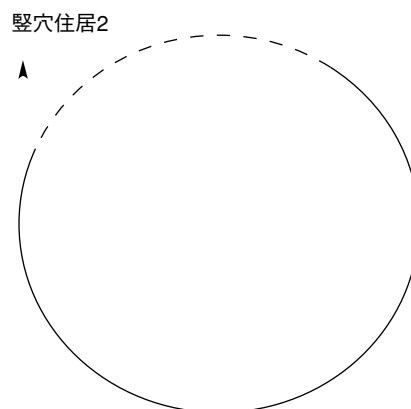
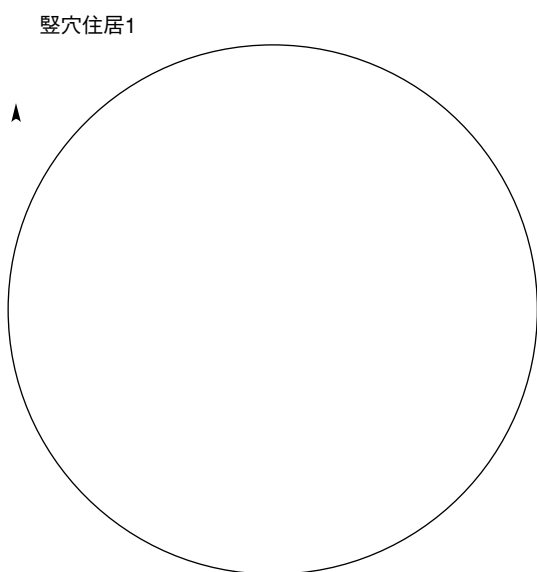


鉢

# 新居浜バイパス関連遺跡

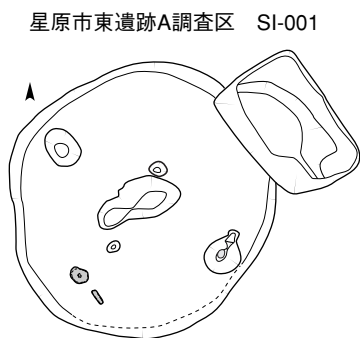
遺跡名	調査年度	時代	遺構	遺物
星原市東遺跡	平成12年度	弥生時代・中世・近世	竪穴住居・掘立柱建物・柱穴・土坑等	弥生土器・石庖丁・鉄滓・三足付土釜・備前焼・亀山焼等
星原市遺跡	平成13年度	中世	掘立柱建物・柱穴・土坑等	土師器・備前焼等

立石遺跡(仮称)で検出した竪穴住居(調査中)

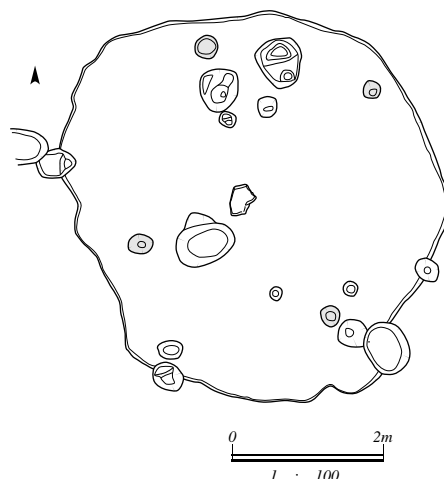


\*立石遺跡(仮称)は調査中のため略図となっています。

星原市東遺跡で検出した竪穴住居(測量平面図)



星原市東遺跡B調査区 SI-002



立石遺跡(仮称)と星原市東遺跡の住居の大きさを比べて下さい。